愛媛県

愛媛果研ニュース

No.26 平成 20 年12月

高品質ブドウ「安芸クイーン」

愛媛県は、平成 20 年 4 月 1 日から、農林水産研究機関の連携強化を図るため、農林水産関係の試験研究機関等 10 機関を、農業・果樹・畜産・林業・水産の 5 部門に再編・統合しました。

果樹部門では、（旧）愛媛県立果樹試験場が「農林水産研究所果樹研究センター」に名称変更するとともに、岩城分場及び鬼北分場が、それぞれ地方局の産業振興課へ移管されました。今後、両分場では、県等で育成・開発した新品種・新技術の栽培実証や有機農業の実証展示などの業務が中心となります。

果樹研究センターは、果樹の品種・栽培・土壌肥料・病害虫に関する調査研究を実施してまいります。また、みかん研究所（旧南予分場）は、名称の変更はありませんが、かんきつの優良品種育成と栽培改善に関する試験研究に特化することとしております。

今回の果研ニュースでは、「温暖化の実態と対応品種のラインナップ」、「ブドウ“安芸クイーン”の着色向上技術」、「カキにおけるフジコナカイガラムシの発生増加の原因と防除法」の３課題を掲載しました。写真の「安芸クイーン」は、赤系の大粒種で糖度が高く食味は極めて良好で、鮮紅色のきれいな赤色が魅力の品種です。西南暖地では着色にやや難があり、あまり普及していませんが、今回、着色向上につながる技術が開発されましたので、紹介しております。また、最近、各種果樹で、カイガラムシ類の発生が多くなっていますが、カキでのフジコナカイガラムシの多発原因と防除対策として有効薬剤、散布方法や粗皮削りの有効性についての研究成果を紹介しますので、参考にしていただきたいと思います。

今後も引き続き地域が抱える課題の解決を図るとともに、優良品種の育成や低コスト生産技術の開発などに努め、年間を通して美味しい果樹が供給できるよう研究を進めて参ります。

果樹研究センター長　荻　原　洋　晶